様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　２ 年　 ６ 月　 ８ 日現在

機関番号：３２６１４
研究種目：研究活動スタート支援
研究期間：2018～2019
課題番号：１８Ｈ０５６２５・１９Ｋ２０８３１

研究課題名（和文）『吾妻鏡』の情報分析による鎌倉時代政治史の再構築

研究課題名（英文）Reconstruction of political history in the Kamakura period by information analysis of "Azumakagami"

研究代表者
高橋　秀樹（Takahashi, Hideki）

國學院大學・文学部・教授

研究者番号：７０８２１９９０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　1,500,000円

研究成果の概要（和文）：『吾妻鏡』頼朝将軍記の文治4年(1188)～建久6年(1195)と、正治元年(1199)～建仁3年(1203)の頼家将軍記について、吉川本を底本として、諸本で対校し、仮名本である南部本『東鏡』を参考にして字句の補訂を施した校訂本文を作成した。
頼経将軍記の文書利用記事を分析し、『吾妻鏡』が文書を一定のフォーマットに合わせて記事化していることを明らかにした。また、梶原景時追放事件・比企能員滅亡事件の原史料分析を行い、ほとんどの記事に天候や時刻の記載がある前者は、文書を原史料とする記事を含めて史料としての信憑性がある一方、後者は、記事に文飾表現も多く、信憑性に欠けることを明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義
鎌倉時代の最重要史料である『吾妻鏡』について、最善本である吉川本を底本に、新発見の仮名本を含む諸本で校合して作成した校訂本文は、今後の鎌倉時代史研究の基礎となる研究資源である。
また、頼経将軍記を例に原史料としての文書利用について分析し、『吾妻鏡』の編纂方法、原史料利用方法の一端を明らかにした。さらに記事の情報源や原史料を想定しながら、『吾妻鏡』記事の性格を検討することで、新しい『吾妻鏡』の史料批判の方法を提示することができた。

研究成果の概要（英文）：About 1188~1203 of "Azuma Kagami", I Created the editorial text based by Kikkawa version, and matched with many version.
Analyzing the document use article of Records Regarding Shogun Fujiwara no Yoritsune, it was clarified that "Azuma Kagami" made the document into an article according to a certain format. In addition, an analysis of the original historical records of The Kajiwara Kagetoki's case and the Hiki Yoshikazu's case was carried out. While the former has credibility, the latter revealed that the article lacked credibility because it contained many decorative expressions.

研究分野：日本史学

キーワード：吾妻鏡　鎌倉幕府

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属されます。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９（共通）

１．研究開始当初の背景

編纂物の史料論

『吾妻鏡』とは、鎌倉幕府が編纂した歴史書である。明治時代の日本の近代歴史学草創期以来、鎌倉時代史研究の根本史料として用いられてきた。しかし、『吾妻鏡』そのものについての研究は、諸本の体系化を行い、多くの誤りや曲筆を指摘した八代国治『吾妻鏡の研究』（1913 年）以後、大きな進展を見ていない。まとまった著作としては、わずかに五味文彦『吾妻鏡の方法』（1990 年）があるが、『吾妻鏡』の原史料については、八代同様に偽文書の引用が多いことを指摘しているほかは、各将軍記が主として依拠した奉行人日記探しに陥っている感がある。編纂物である『吾妻鏡』の記事の質は、依拠した原史料の質に由来する部分が大きい。そのため、『吾妻鏡』を史料として利用する際には原史料の探求やその情報の質の吟味が不可欠のはずであるが、引用文書と現存する公家日記以外の原史料は、探求の方法さえも確立していない。

一方、上横手雅敬『日本中世政治史研究』(1970 年)を始めとする鎌倉時代前期の政治史研究の中には、史料批判を行う中で、個々の『吾妻鏡』記事の信憑性に疑問を呈し、その作為性や創作性を指摘するものがある。その主たる方法は、『吾妻鏡』と他の史料との矛盾から、『吾妻鏡』の個々の記事を批判するもので、得てして、自身の結論に都合のいい記事のみを用い、都合の悪い記事は『吾妻鏡』の曲筆という一言で片付けてしまう傾向にある。

依拠テキストの問題

最善本とは言えない北条本（国立公文書館所蔵）を底本に、校訂者がいくつかの本を適宜参照して独自に文字を改変したものであるため、ほとんどの研究が用いている新訂増補国史大系所収の活字本は現在の史料研究のレベルから見ると信頼性に欠ける。

史料研究と政治史研究の乖離

これまでの研究に欠けているのは、『吾妻鏡』が様々な原史料をもとに編纂された編纂物であるという性格を踏まえ、諸本間の文字の異同にまで関心を払った精緻な史料分析であり、そうした史料研究の成果を政治史研究に活かす視点である。『吾妻鏡』に限らず、他の記録史料でも史料学的なテキスト分析によって、政治過程の研究がどう変わるのかというのを具体的に示す研究はほとんど見られない。

上記の通り、『吾妻鏡』研究には、その核心部分において学術的に解決すべき課題がある。本研究は、それらの「問い」を解決しながら、鎌倉時代政治史の再構築を行うものである。

２．研究の目的

本研究の目的

本研究の目的は、『吾妻鏡』各記事の情報毎に原史料の分析を行い、信憑性の高い原史料に拠る記事と情報源が特定できないような創作記事とを区別する『吾妻鏡』原史料探求の方法を確立させること、その情報分析の成果に基づき、質の高い情報のみに基づく政治的事件の推移を復元し、北条氏による他氏排斥・将軍追放という単純な図式で捉えられてきた鎌倉時代政治史を再構築することである。

学術的独自性と創造性

日本の古代・中世史の分野では、公家日記や文書については史料原本の調査によって筆録意識や紙質に至るまでの精緻な史料論が展開され始めている。しかし、『吾妻鏡』を始めとする編纂史料については、現在の古代・中世史研究における史料研究のレベルに到達する研究は皆無と言っていい。その点で、本研究は中世の編纂史料に関する初めての本格的な史料研究となる。本研究の方法と成果は、他の編纂史料の研究にも応用、貢献できると考える。

また、この分野においては、史料研究の研究者と政治史研究の研究者は分離しており、史料研究と政治史研究の両者を行う研究者はほとんどいない。そのため、史料研究は独自に展開していて、政治史研究を視野に入れていないし、政治史研究は活字史料の記事内容だけに関心を持っていて、史料の成り立ちや原史料、諸本間の文字の異同などを意識していない。

これまで公家日記などの史料研究で成果を出す一方で、政治史研究にも関心を持ってきた研究代表者が、史料研究の成果を踏まえて記事の情報分析を行い、その成果を直接的に政治史研究に結びつけることは初めての試みとなる。情報の質というレベルまで掘り下げた分析手法は、『吾妻鏡』の史料批判の方法を大きく変えることになると考える。

３．研究の方法

信頼できるテキストの確定

吉川史料館所蔵の吉川本を底本に、北条本（国立公文書館所蔵）・島津本（東京大学史料編纂所所蔵）・毛利本（明治大学図書館所蔵）の集成本 3 種、三条西本・伏見宮本（以上、宮内庁書陵部所蔵）・文治以来記録（尊経閣文庫所蔵）・清元定本（東京大学史料編纂所所蔵）の零本 4 種を対校本として用い、南部本（八戸市立図書館所蔵）・勝海舟旧蔵本（天理図書館所蔵）を参考に校訂した信頼に足る『吾妻鏡』本文を作成する。

吾妻鏡の原史料分析

多様な『吾妻鏡』の原史料のうち、関連する史料が追加法令集などに収載され、比較分析が可能な文書を例に、『吾妻鏡』が原史料をどのような形で取り込んでいるのかを分析する。

個別事件の分析・検討

頼家将軍記の梶原景時追放事件、比企能員滅亡事件を例に、天候記載の有無や文体などから

『吾妻鏡』記事の原史料を分析し、文飾表現の有無などから各記事の信憑性を確認した上で、関連する公家日記・『愚管抄』の記事も踏まえて、事件を再構築する。

４．研究成果

信頼できるテキストの確定

頼朝将軍記の文治 4 年（1188）～建久 6 年（1195）と、頼家将軍記の正治元年(1199)～建仁 3 年(1203）の作業を行い、その成果は高橋秀樹編『新訂吾妻鏡三』(和泉書院、2018 年)、同『新訂吾妻鏡四』(和泉書院、2020 年刊行予定)で公開した。

吾妻鏡の原史料分析

承久元年(1219)～寛元２年(1244)の頼経将軍記を主たる素材として、文書を原史料として利用したと思われる記事を分析し、文書を原史料とする本文記事のパターンを明らかにした。

まずは、六波羅に命じるという内容を持つ記事と、鎌倉幕府法令集に収められた同日付の関東御教書を比較し、これらの記事が六波羅宛ての関東御教書を原史料として作文されたことを明らかにした。法令集に収載されていないものの、六波羅宛ての関東御教書を原史料としている記事の存在も指摘した。原史料となった文書は鎌倉幕府に保管されていた通達文書の案文集が利用されたと考えられる。

ついで、問注所（執事三善康持）に命じるという内容を持つ記事と、法令集所収の康持宛て関東御教書との比較を行い、問注所に命じる形をとる記事も関東御教書が原史料であることを明らかにした。長期間にわたって利用された六波羅宛てに対して、康持宛ては 3･4 年の短期間に集中している。それは、康持宛ての文書が幕府保管の文書案文集に拠ったのではなく、問注所執事の家に伝来した文書を利用したためだと考えられる。

その他の伝達文書や権利関係文書についても検討し、「文書を誰々に遣わされた」「～の由を誰々に仰せられた」という形の記事や、記事中に文書の存在が記されている記事は、文書を利用している可能性が高いことを指摘した。また、将軍記をまたいで関連文書が利用されていることは、共通の原史料をもとに『吾妻鏡』が編纂が行われていたことを示しており、幕府の文書保管機能を高く評価すべきである。

以上の成果は、「『吾妻鏡』の文書利用について―頼経将軍記を中心に―」(『国学院雑誌』第 120 巻第 12 号、2019 年）で発表した。

個別事件の分析・検討

頼家将軍記の梶原景時追放事件・比企能員滅亡事件の原史料分析を行った。

梶原景時の事件は、その発端である阿波局が結城朝光に景時の讒言を告げる記事から、そのほとんどの記事に天候や時刻の記載があり、天候記載のない記事も文書を原史料とした記事だとみられる。また、不読助字を用いた文飾も少ないので、一連の『吾妻鏡』の記事は史料としての信憑性があると判断できる。

一方、比企能員滅亡事件は、時刻を伴う戦乱の経緯には信憑性があるものの、その前後の北条政子による密告記事やだまし討ち記事などには文飾表現も多くあり、史料としての信憑性に欠ける。頼家から実朝への代替わりが『吾妻鏡』記事よりも早い段階で京都に伝えられていたことが『猪隈関白記』から明かである。『愚管抄』にも関連記事があるが、伝聞による不確かな情報も混じっており、これに依拠するのも危ういことを明らかにした。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計4件（うち査読付論文　3件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　0件）

１．著者名 高橋秀樹	４．巻 852
２．論文標題 鎌倉幕府成立は「イイハコ」になったのか	５．発行年 2019年
３．雑誌名 日本歴史	６．最初と最後の頁 64-73
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀樹	４．巻 23
２．論文標題 兵庫県立歴史博物館所蔵『源平合戦図屏風』（三浦・畠山合戦図）について	５．発行年 2019年
３．雑誌名 三浦一族研究	６．最初と最後の頁 1-12
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀樹	４．巻 120-12
２．論文標題 『吾妻鏡』の文書利用について－頼経将軍記を中心に－	５．発行年 2019年
３．雑誌名 国学院雑誌	６．最初と最後の頁 1-19
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

１．著者名 高橋秀樹	４．巻 860
２．論文標題 鎌倉時代の恋愛事情－『民経記』と『明月記』から－	５．発行年 2020年
３．雑誌名 日本歴史	６．最初と最後の頁 42-48
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 －

〔学会発表〕　計1件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

1．発表者名 高橋秀樹
2．発表標題 『吾妻鏡』の文書利用について
3．学会等名 国史学会４月例会
4．発表年 2019年

〔図書〕　計3件

1．著者名 高橋秀樹	4．発行年 2018年
2．出版社 和泉書院	5．総ページ数 391
3．書名 新訂吾妻鏡三　頼朝将軍記３	

1．著者名 高橋秀樹・櫻井彦・遠藤珠紀	4．発行年 2019年
2．出版社 八木書店	5．総ページ数 304
3．書名 史料纂集　勘仲記　第六	

1．著者名 高橋秀樹	4．発行年 2020年
2．出版社 和泉書院	5．総ページ数 380
3．書名 新訂吾妻鏡四　頼朝将軍記4　頼家将軍記	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考